

自立活動の広がり求めて ～スキルをつむつむ大作戦～

小学部5年生
児童Bのケース

1 児童Bの実態

【よいところ】

- ・楽しみにしながら毎日学校に登校できる。
- ・文字が理解できるため、スケジュールや手順表があると自分から活動できる。
- ・体を動かして遊ぶことが好き。
- ・友だちや教師の名前を覚えている。
- ・教師の励ましや支援を素直に受け入れることができる。



【困っているところ】

- ・自分の思いをきちんと言葉で相手に伝えることは苦手。
- ・いらいらしてパニックになると、物を壊したり他害や自傷をしたりする。
- ・挨拶など基本的な他者との関わりを自分からもつことは少ない。



自立活動お助けシートを活用！

3 人間関係の形成		【児童B】さんの実態チェック	
記入日 H27年 4月		○△×	メモ(気付いたことなど)
① 他者との関わりに関すること			
・特定の教師からの働きかけを受け入れて行動できる		○	
・特定の教師以外の教師からの働きかけを受け入れて行動できる		○	
・褒められていることが分かる		○	
・友達への関心がある		○	
・特定の教師と一緒に楽しさや気持ちよさを感じることができる		○	
・誰とも楽しさや気持ちよさを感じることができる		△	親しい友達や教師と一緒に ならでできる。
・自分から他者へ何らかの方法で働きかけができる		△	小声で単語を言う、目で 訴えるなどする。
・要求を実現してくれる人へ注意を向け、訴えたり、働きかけたりできる		○	
6 コミュニケーション			
記入日 H27年 4月		○△×	メモ(気付いたことなど)
① コミュニケーションの基礎的能力に関すること			
・いろいろな刺激に対して、快・不快の表出ができる		○	
・話しかけている相手や、相手の示している物を見ることができる		○	
・要求があるときに何らかの手段で伝えようとする(該当するものに○印)			
(言葉) コミュニケーションエイド 絵・写真カード サイン・身振り 指さし 発声 クレーン			
・適切な方法(言葉、身振り、サイン、絵カードなど)で拒否の気持ちを伝えることができる		△	親しい教師に、適切な 方法でできるときがある。
・適切な方法(言葉、身振り、サイン、絵カードなど)で支援を求めることができる		△	
・簡単な動作の模倣ができる		○	

児童Bは「遊びに行ってきます」や「おかわりください」など決まった場面での言葉を教師に伝えることができる。そのため、気持ちを表現する言葉を知り、場面での使い方を学習することで、ストレス軽減につながるのではないかと考えた。また、支援を続けることで、より多くの教師や友達と関係を築き、コミュニケーションの幅を広げ、日常生活がより充実したものにしてほしいと考えるため、以下の目標を設定した。

人間関係の形成

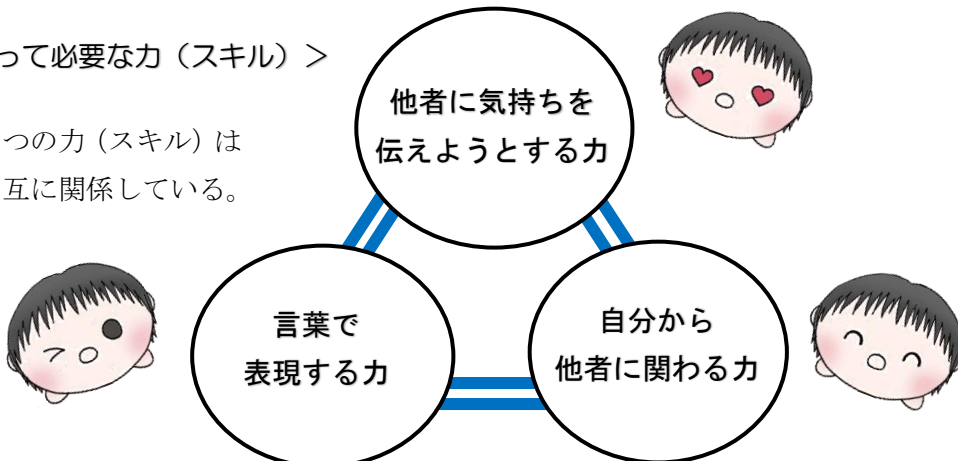
2 自立活動の目標

コミュニケーション

自分の気持ちを適切な言葉で表現することができる。

<目標に向かって必要な力(スキル)>

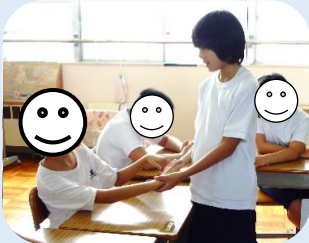
*3つの力(スキル)は
相互に関係している。



3 各授業での実践

日生

- 友達に自分から話しかけることができる。
- 場面に必要な言葉が分かる。



朝の会で司会をし、友達一人一人に挨拶をする。

〇〇くん、げんきですか？
(文章カード)

生単

- 教師に報告することができる。
- 場面に応じた感情表現を知る。

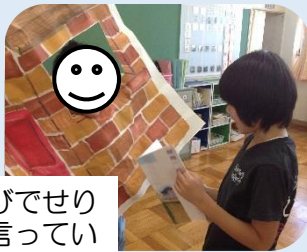
報告する場面。



教師と一緒に「うれしい」と言っている場面。

国語

- 感情を表す言葉を知る。



劇遊びでせりふを言っている場面。

音楽

- 自分から友達と関わることができる。



ペアになる友達を自分で探す。

体育

- 褒められることを楽しみにできる。

自分で、頑張ることができる視覚的な課題設定。



(立ち幅跳びで、目標地点を旗で表示)

変化



- ① 学習した言葉や文章を自分から言うことができるようになった。
- ② 課題をクリアし、褒められたい気持ちが芽生えてきた。
- ③ 友達がしている遊びや動作を観察するようになった。

• コミュニケーションを強くとりたと思う、友達や教師の存在が必要。

コミュニケーション

- 小さなことでも自分から発信することができるようになる。

信頼関係が発達を促す。

健康の保持

- 発作が頻発してきたため、体力の向上を図る。

4 今後の課題関係図

まとめ

人間関係の形成のスキルUPが重要!!

人間関係の形成

- 一緒に遊ぶことができる教師や友達を増やす。

環境の把握

- 分からない物事に対する不安を軽減するため、人や物の特性を知る。

心の余裕が関係作りの要因に。

心理的な安定

- できることを増やし、不安材料を減らす。
- 安心できる教師、場面を増やす。

身体の動き

- 運動や動作に必要な身体の動かし方や手の動かし方ができるようになる。

* 自立活動6区分における児童Bの場合であり、一例です。